



## 故本會評議員工學博士阪田貞一君の小傳

東京高等工業學校長從三位勳二等工學博士阪田貞一君は阪田長十郎氏の二男にして安政四年八月江戸虎の門外御用邸に生る明治十三年七月東京大學機械工學科を卒業し理學士となり直ちに印刷局機械科技手を拜命し二十年六月工科大學助教兼東京職工學校教諭に任す二十三年七月機械工學研究の爲二箇年間歐米に留學を命せらる三十一年一月東京工業學校長に任せられ三十二年二月更に東京高等工業學校教授となり同年三月工學博士の學位を授けらる三十三年五月再び歐米各國に差遣せられ三十四年三月歸朝す三十六年十二月特許局技師となり四十二年七月早稻田大學理工科長を囑託せられ大正五年九月東京高等工業學校長に任せらる

君は實に人格崇高にして常に身を機械工學及工藝の爲めに捧げ機械學會幹事長に推薦せらるゝこと前後數回又大正四年二月我日本鐵鋼協會創設せらるゝに際し評議員に選舉せらる其他公私の工業界並に工業教育界に君の貢獻せられし所殆ど枚舉に遑あらず適々昨年九月病を得て療養引籠中なりしか藥石効なく遂に同年十二月一日東京市牛込區中町の自邸に於て薨去せらる享年六十四歳